

安全の手引き
～緊急事態対処マニュアル～
(リヨン市及びオーヴェルニュ・ローヌ＝アルプ州)

平成30年10月10日

在リヨン領事事務所

I	序言	2
II	防犯の手引き	
1	リヨン市及びオーヴェルニュ・ローヌ＝アルプ州の一般治安情報	4
2	外出先での安全対策	5
3	住居の安全対策	8
4	テロ対策	9
5	トラブル対策	10
6	緊急連絡先	14
7	トラブル時のフランス語	15
III	在留邦人用緊急事態対処マニュアル	17
IV	結語	20

I 序言

フランス国内では、パリ市内及び近郊都市での日本人の盗難被害が年間約 700 件以上報告されています。リヨン市も「食の都」として世界中から多くの観光客が訪れますが、近郊都市を含めて短期邦人旅行者が盗難等の犯罪被害に遭うケースは後を絶ちません。

また、近年、様々な国・地域でイスラム過激派組織によるテロや、これらの主張に影響を受けた一匹狼（ローンウルフ）型による同様の事件が発生しています。都市部での大規模テロ事件が発生する危険性は引き続き存在すると考えなければならず、いざという時のための備えが必要です。

このような情勢を十分に認識して、テロ等に遭わないよう、巻き込まれることがないように、海外安全情報及び報道等により最新の治安・テロ情勢等の関連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持つとともに、状況に応じて適切で十分な安全対策を講じるよう心がけてください。

☆海外に渡航・滞在される際には、国内で生活している時とは異なる心構えが必要です。緊急時の安否確認等のため、海外に渡航される方は外務省海外旅行登録「たびレジ」に登録を、3か月以上滞在される方は在留届の提出をお願いします。

■外務省海外旅行登録「たびレジ」（3か月未満の渡航の方）

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/#>

■在留届（3か月以上滞在される方）

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/zairyu/index.html>

■スマートフォン用 海外安全アプリ

http://www.anzen.mofa.go.jp/c_info/oshirase_kaian_app.html

■在リヨン領事事務所ホームページ

<http://www.lyon.fr.emb-japan.go.jp/jp/index.html>

■在リヨン領事事務所 Facebook :

<https://www.facebook.com/japon.consulat>

1 テロへの注意～海外安全情報のチェック～

海外に渡航・滞在される方は、旅行計画の段階から渡航・滞在国に発出されている海外安全情報をよく確認し、自らの安全確保に努めてください。特にテロの標的となりやすい場所（デパートや市場等不特定多数が集まる場所、公共交通機関、ホテルなどの宿泊施設、ビーチ等のリゾート施設、観光施設、政府・軍・警察関係施設）を訪れる際には、周囲の状況に注意を払い不審な人物や状況を察知したら速やかにその場を離れる等、安全確保に十分注意を払ってください。

2 「目立たない」自己防衛

日本人として狙われないためにはどうしたら良いのでしょうか？日本人が狙われやすいという点から引き出される一つの教訓は、とにかく「目立つな」ということです。これは自己防衛の一つの手段とし

て日本人にとって重要なことです。同じ日本人でも長年現地に住む駐在員より、観光客の方がよく目立つことは知られています。外出する時いかにもそれと分かるブランド品やアクセサリーなどは身につけない方が無難です。

3 自分の身は自分で守るという意識を持つ

世界に100%安全なところはない、という前提に立ち、「自分の身は自分で守る、自分の家族は自分たちで守る」という意識を持って常日頃から情報収集に努め、適切な安全対策を講じることが従来にも増して重要になってきています。

4 家族ぐるみの安全防犯対策

平素から家族の安全に対する認識を高めることは重要です。子供にも普段から安全対策について話しておくことが大切です。例えば、見知らぬ人に話しかけられた時の対応、来訪者に対する対応、電話対応時の注意、両親不在時の注意事項などを教えておくとい良いでしょう。子どもは親の行動を見ているので、親が普段から安全に対する模範を示すよう心がけること。また、テロや誘拐対策として家族全員の行動パターン化に特に注意するように心がけましょう。

5 身近な情報を活用する

自分が住む地域の「現地情報」は、家族の安全に直接関係する大切な情報です。最寄りの領事館や大使館のホームページやメールをチェックし安全情報を手に入れるほか、地域の日本人向け情報誌などに目を通す等の情報収集が重要です。そういった公の情報のほか、「口コミ情報」を生活防衛に有効に生かすことも大切です。スリの多いスーパーマーケット、引ったくりの多い地下鉄駅など、生活者でなければ知ることのできない情報が役に立つこともあります。その場合、日本人の間だけで交わされる「うわさ」に惑わされず、地元の新聞、テレビ及びラジオの報道、現地の人々の情報や意見を聞くことも重要です。いずれにおいてもアンテナを張りめぐらし、複数の情報源からより正確な情報を把握する習慣を身につけるべきと良いでしょう。

II 防犯の手引き

1 リヨン市及びオーヴェルニュ・ローヌ・＝ルプ州の一般治安情報

(1) 犯罪発生状況

ア 空き巣

ローヌ県では、リヨン市第3区、VILLEURBANNE 市など、発生件数の多い地域もありますが、空き巣はどの地区・地域でも起こりえます。特に各バカンス時期の発生件数が最も多く注意が必要です。

イ 強盗、車上荒らし

リヨン市2区、3区、7区、8区及びVILLEURBANNE 市では、その他の地域より強盗が多く発生していますが、繁華街や列車駅などの若者が集まる地域、酔っ払いが多く集まる地域で発生件数が高い傾向があります。

ペラーシュ駅、リヨン・パールデュエ駅などの列車駅の周りにはロマ人の路上生活者が多く、小銭を要求してきたり、「食べ物を買う金がほしい、UNICEF の募金をしてほしい」と話しかけてくることがあります。その間に財布をすられることもありますので、相手にせずその場を離れるのが一番の対策です。

また、低所得者層の多く住んでいる地域や移民が多く生活している地域でも発生件数が多い傾向があります。

(2) 主な犯罪発生地域

ア パールデュエ駅、ペラーシュ駅構内

構内に警察署のある TGV 停車駅であり、特別な警戒態勢が取られていますが、必ずしも治安は良くありません。

イ ホテル内

朝食時のカバンの置き引き、部屋の戸締まりが不十分である場合の窃盗被害が発生しています。

ウ 観光スポット（レピュブリック大通り、テロー広場、ベルクール広場、サンジャン教会近辺、フルビエール教会近辺等）

外国人旅行者が集まる観光スポットでは、置き引き、ひったくりの被害が増加しているほか、ドラッグ使用の若者による暴行事件が発生しています。

エ パールデュエ商業センター内

リヨン第3区にある同商業センターには若者が集まり、置き引き、ひったくり事件、若者のトラブルが発生しており巻き込まれないよう注意が必要です。

オ サンテグジュペリ国際空港

同空港は空港警察によって比較的厳重な警備体制がとられ、犯罪等への対応は迅速に行われていますが、近年 TGV（フランスの新路線）の定期便の運航増加や低コストのチャーター便の運航増加による日本人利用客の増加に伴い、盗難、置き引きなどの犯罪被害の増加が懸念されています。

2 外出先での安全対策

在留邦人の皆様は、スリ、ひったくり、置き引きなどの犯罪被害には、日頃から相当注意されているものと思います。一般的には、貴重品はなるべく携行せず、現金等は分散して所持すること等が必要ですが、これらに併せて以下の点にご注意ください。

被害に遭わない秘訣1：スキを作らない

犯人はあなたの行動を見てスキがあるかどうかを判断します。

- ① おしゃべりに夢中になる。
- ② ショッピングに気をとられる。
- ③ 両手に買い物袋などを持つ。
- ④ バッグの口が開いている。
- ⑤ 荷物の中身がとりやすい。
- ⑥ 荷物を置いたまま離れる。
- ⑦ ベबीカーを押している人も要注意です。

スキを作らないようにすることは簡単なことですが、これを持続することは大変です。在留邦人の皆様の中には、市場でスリに遭われる方も大勢いらっしゃいます。人混みでは一瞬気が散るなどスキが出来てしまいますので注意が必要です。

被害に遭わない秘訣2：1分1秒、2分2秒、3分3秒

1分の間に1秒だけだったらできるはずです。

常にスキを作らないよう気を配るのは大変です。今いる場所の危険度に応じて、間隔を開けてもいいでしょう。1分に1秒、2分に2秒、3分に3秒だけ、自分にスキがないか振り返ってみてください。

- ① バッグに手を添える。
- ② ポケットに手を当ててみる。
- ③ チャックが閉まっているか調べる。
- ④ 歩いているところが危険でないか注意する。
- ⑤ 怪しいバイクがつけてこないか振り返るなどして確認する。

危険信号1：スキを作られる

あなたがスキを見せなくてもスキを作られることがあります。

- ① エスカレーターで物を拾うふりをして立ち止まる。
(後ろにいるあなたがそれに気を取られている間に、さらに後ろにいる仲間が物を盗る)

- ② 時間や道を聞いたり話しかける。
(話しかけてきた人に気を取られている間に仲間が物を盗る)
- ③ 周りを取り囲んでしまう。
(注意する人が多くて気が回らない)

防止策 スキを作られそうになったときは、相手の手にのらないでやり過ごすことです。前の人が立ち止まる、話しかけられるなど、誰かにスキを作られそうになったら「まず荷物を抱える」ことが大切です。まずは落ち着いて荷物を確保しましょう。

危険信号2：オートバイによる引ったくり

オートバイによる引ったくりは非常に危険です。

歩道を歩くときは建物側を歩き、バッグなども建物側に持つなどの対策が有効でしょう。なお、バッグを盗られないようにしっかり持っていたため、引きずり倒されて打撲、骨折をした人もいます。できるだけ盗られないように注意することは勿論ですが、盗られてしまったら、自分の身の安全も考え、バッグから手を離すことも必要かも知れません。

危険信号3：車に関する盗難（自動車盗難又は車上狙い）

どのような被害があるのでしょうか？

- ① 駐車した車を盗まれる。
- ② 車中に置いた物を盗まれる。

なお、渋滞中や赤信号で停車していると、突然ドアが開けられたり、窓ガラスを割られ、膝や座席の上に置いたバックの盗難に遭うという例も発生しています。

防止策 車を駐車するときは、① 短時間であっても鍵をかける、② 外から見える場所に物を置かない（荷物は極力トランクに入れる）、③ 渋滞や赤信号で停車した際には周囲に十分注意する。

危険信号4：睡眠薬を使用した犯罪

睡眠薬はたとえ少量であっても大変危険です。

観光名所を散策中、欧米系の男性から英語で話しかけられ、チョコレート、アイスクリームなどを勧められるまま口にしたら、突然意識を失い、気がついた時には所持品を盗まれていたといったケース、邦人女性がカフェにて飲食中、流暢な日本語で話しかけられ、相手の勧めに応じてビールを飲んだところ、意識を失い、暴行されたといったケースもあります。むやみに見知らぬ人から飲食物を勧められても、断る勇気が必要です。

危険信号5：偽の肩書きを使った詐欺被害

警察官が公道上で財布等の提示を求めることはありません。

警官、消防署職員、警備員、配管工などの偽の肩書きを名乗って複数の犯人が家に入り込み、1人が家主の注意を引いている間に、共犯者が貴金属などを盗むという犯罪が多発しています。毎年警察が注意を促しているにも関わらず、高齢者を標的にしたこの種の狡猾な犯罪は後を絶たしません。リヨンに限れば特に3区、6区、7区といった比較的裕福な住人の多い地区が狙われやすいようです。

歩行中、私服警察官を称する男性が近寄り、偽札の検査をしているとして財布の提出を求められたため、一時的に財布を渡した。その後、財布の返還を受け中身を確認したところ、紙幣が抜き取られていた。また、散策中に地図を持った男性が近寄り、道を尋ねられたため対応していたところ、麻薬の捜査をしているとして警察官を名乗る男が近寄り、財布の提示を求められた。最初に話しかけてきた男も財布を渡していたので自分も財布を渡した。その後中身を確認したところ、紙幣が抜き取られていたといった偽警察官による被害があります。

防止策 接触してきた人物の身分証明書を良く確認しましょう

- ① 見なれたユニフォームを着ていても、必ず身分を確認できる証明書の提示を求めましょう。
- ② 電話でその任務が存在するのかどうかを確かめるくらいの用心をしたほうがよいでしょう。
- ③ 特に、口実をつけて家の内部に侵入しようとする人物には要注意です。
- ④ 一度ドアを開けてしまえば、無理やり侵入してくる恐れもあるので、見知らぬ訪問者予定外の訪問者には決してドアを開けないようにしましょう
- ⑤ 地図を広げ、道を尋ねる外国人らしき人物から話しかけられた場合には、先ず警戒し断つてもしつこく話しかけてくる場合には速やかに立ち去る。
- ⑥ 私服警察官やデザイナーを装う不審な人物には注意する。

危険信号6：メトロ内におけるスリ被害

犯罪者は常にあなたの行動を観察しています。

リヨン市内はメトロ(地下鉄)が発達しており、市内の移動手段としては利便性も高く、多くの在留邦人や日本人観光客も利用していますが、車内でのスリ被害が多発しています。地下鉄に乗車した際、数人の子供(或いは女性)に取り囲まれ、身動きを取れなくされた上で気がついたらバッグの中から財布を盗まれるケースや、地下鉄駅ホームで男性から「背中が汚れているので上着を脱いだ方がよい」と促され、その汚れを拭いている隙に足下に置いたバッグを取られ、走って逃げられる等のケースもあります。

防止策 被害の多くは混雑時の電車内、或いはホーム上で発生しています。以下の注意事項を参考に安全対策に心がけてください。

- ① ハンドバッグ等は、留め具やファスナーをしっかりと閉め、ファスナー部分を内側にして体の正面でしっかり持つ。

- ② パスポートや財布等の貴重品は内ポケットに入れ、ズボンの後ろポケットなど他者が容易に見える状態にはしない。
- ③ 電車内のみならずホーム等地下鉄駅構内でも常にバッグ等の所持品に気を配る。
- ④ 犯人の多くが女性や子供の集団です。子供が集団でスリなどの犯罪行為を行うとは日本ではあまり考えつかないことですが、相手が子供だからと油断せず、むしろ子供や少女の集団に遭遇したら、警戒度を高めるくらいの意識が必要です。

危険信号7：カージャック

武器や暴力を伴ったカージャックでは、抵抗すると刃物等で攻撃される可能性もありますので、犯人の要求に従うことが身を守ることにつながります。駐車中の自家用車には市販の盗難防止システムを利用することが推奨されます。

- 防止策**
- ① 信号待ちしているときなども近づいてくる人には警戒しましょう。
 - ② 抵抗しないようにしましょう。命の危険につながる可能性があります。
 - ③ 高級車は盗難の標的になる可能性が高いですので、防犯システム（遠隔操作の可能なGPS等）が推奨されます。

3 住居の安全対策

（1）住居選び

リヨン市内及び郊外では、例外なく空き巣犯罪が発生しています。住居選択の際には以下をあらかじめ確認することが推奨されます。

- ① 入居しようとする住宅が安全な地域かどうか（入居前に地区の犯罪発生件数等について確認しましょう）。
- ② アクセスが困難か（建物の出入口のセキュリティー、各フロアのセキュリティー、駐車場へのアクセス）。
- ③ 来訪者をテレビカメラ・インターフォン等で部屋から確認できるか。
- ④ 管理人または警備員が常駐しているか。
- ⑤ 玄関扉等が頑丈か（素材、鍵の数、チェーン錠、覗き穴）。
- ⑥ 窓（侵入を防ぐ構造となっているか、雨戸はあるか）。

（2）生活上の注意

- ① 見知らぬ人物をドアの内側に絶対に入れない

不審な人物が来訪した場合には決して扉を開けず、内部のチェーン錠を掛けて対応することが重要です。また、外出する際は、窓からの進入を防ぐよう戸締まり、短い時間でも雨戸をしめることが推奨されます。

② 鍵を手にするタイミングを見計らう

外出先から自宅玄関前に来て初めてバッグから鍵を探り出すのは非常に危険です。外出先からの家人の帰宅時を狙った強盗被害が発生しており、予防策として、あらかじめ玄関に付くまでに鍵を手にし、周囲を注意した上で玄関の鍵を開けるようにしてください。

③ 長期間留守にする場合の注意

長期間家を空ける場合は、大切なものは自宅に置かないことが、予防策につながります。高価な貴重品がある場合は銀行の貸し金庫などの信頼できる場所に保管してください。郵便物がたまらないよう、転送サービスなどを利用してください。また、隣近所からの通報が、犯人逮捕のきっかけとなることが多いですので、普段からのご近所づきあいが肝心です。

④ 住宅保険加入

フランスでは住居契約の際、損害保険への加入が義務づけられていますが、家主側が保険について詳しくない場合もあり、退去時に高額な請求をされる可能性もありますので注意が必要です。しっかりした不動産業者を介して、マルチ・リスクに対応した保険への加入が推奨されます。

4 テロ対策

イスラム過激派組織又はこれらの主張に影響を受けているとみられる者による一匹狼（ローンウルフ）型のテロや誘拐等が世界各地で発生しています。今後、同様の事件が発生する可能性は否定できず、日本人・日本権益が標的となり、テロを含む様々な事件の被害に遭うおそれがあります。

つきましては、海外に渡航・滞在される方は、上記のようなテロ情勢に十分留意し、誘拐、脅迫、テロ等の不測の事態に巻き込まれることのないよう、外務省が発出する海外安全情報及び報道等により、最新の治安情勢等の関連情報の入手に努めるとともに、日頃から危機管理意識を持つよう努めてください。

テロ等から身を守る注意点

- ① 一連のテロ事件が特に交通機関を狙い多く発生していることから、交通機関を利用する場合には身の回りの不審物に十分注意する必要があります。また、人の多く集まる場所（繁華街、ショッピングセンター、駅等）においても注意を怠らないよう注意しましょう。
- ② 爆弾テロに遭遇した場合は、落ち着いて行動を取り、窓ガラスなどから離れ、爆風によるガラス片などが降りかからない壁際の床や机・ベッドの下などに伏せたり、潜り込むこと。爆発音がおさまってから周囲を警戒しながら避難をしましょう。
- ③ 自動小銃などの銃声が聞こえた場合には、直ぐ地面に伏せること。そして、射撃音の方向を確認した上で、射撃音と反対方向を目指し、低姿勢をとりながら現場離脱を図りましょう。

- ④ 不審物を発見した場合には不用意に近づくことは避け、「触れるな」「踏むな」「蹴飛ばすな」の三原則を守りましょう。
- ⑤ 通常フランス国内で、テロ事件が発生した場合は、国内の主要都市、空港、駅、国境において治安当局の警備が強化されるので、現場で警戒・警備を行っている官憲から指示を受けた場合は、安全確保の観点から、その指示に従うようにしてください。
- ⑥ 日頃より、新聞やテレビ等の報道に耳を傾け、滞在地の治安情勢に十分配慮し、外務省の発出するテロ情報など最新情報の入手に努めましょう。

5 トラブル対策

(1) 盗難被害に遭ったら

直ちに最寄りの警察署に赴き、盗難証明書(Récépissé de Déclaration de Vol)を発行してもらいましょう。

パスポートの盗難にあわれた方への再発行手続には、盗難証明書の提示をお願いしています。また、加入されている海外旅行保険に盗難被害の申告する際にも同証明書が求められることがあります。盗難証明書作成依頼書フォームは、下のアドレスよりダウンロードできます。

★ <http://www.fr.emb-japan.go.jp/jp/anzen/pdf/tonaniraisho.pdf>

この依頼書は、警察署で盗難証明書をはじめとする被害届けを作成してもらうための書類です。できる限り詳しく、被害状況を記入するようにお願いします。住所、氏名等はローマ字でご記入ください。

「被害届を作成してください。」はフランス語で次のとおりです。

Je vous prie de bien vouloir établir un Récépissé de Déclaration selon le rapport écrit ci-dessous

(2) 病気になったら

ア 緊急の場合

救急車を呼ぶ場合、電話番号は 15 番（局番なし）、公営の [S. A. M. U.](#) (Service d'Aide Médicale Urgente) にかかけます。S. A. M. U. はフランスの緊急医療援助体制の略で、フランス全土をネットワークで結んでいます。15 番はフランス国内共通電話番号です。救急車には医師が同乗しており救命装置が装備されています。救急車の依頼料金は有料、電話による緊急医療相談は無料です。

イ 薬局

フランスは医薬分業が徹底しています。薬局の薬剤師は相談に応じ、医師の処方箋なしで買

える範囲の解熱剤，整腸剤，鎮痛剤や体温計などがあります。

ウ 往診など

往診専門の医療機関は SOS Médecin (電話 04.78.83.51.51)，または Maison médicales de garde(電話 04.72.33.00.33)です。海外旅行傷害保険などに加入している場合は，それに提携しているアシスタンス会社に電話すると全て日本語でサービスが受けられます。

Hospices Civils de Lyon : リヨン公立病院は滞在中の地域と病気の種類により医者からどの病院に行くべきか指示を受けますが、電話番号は共通番号です。共通電話番号 : TEL: 08. 25. 08. 20. 69

Hôpital Edouard Herriot 5, place d'Arsonval 69437 Lyon cedex 03

Centre Hospitalier Lyon Sud Chemin du Grand Revoyet 69495 Pierre Benite cedex

Hôpital de la Croix-Rousse 103, Grande-Rue de la Croix-Rousse, 69317 Lyon cedex 04

Hôpital de la Croix-Rousse Centre Livet 8, rue de Margnolles 69300 Caluire et Cuire

Hôpital de l'Antiquaille 1, rue de l'Antiquaille 69321 Lyon cedex 05

Hôpital Neurologique et Neurochirurgical Pierre Wertheimer / Hôpital Femme Mere Enfant

59, boulevard Pinel 69394 Lyon cedex 03

Hôpital Cardiovasculaire et Pneumologique Louis Pradel 28, avenue Doyen Lepine 69500 Bron

Hôpital Henry Gabrielle route de Vourles BP 57 69565 Saint-Genis Laval cedex

Service de Consultations et de Traitements Dentaire 6-8, place Depéret 69007 Lyon

Centre Hospitalier Saint-Joseph et Saint-Luc : 20, quai Claude Bernard 69007 Lyon

TEL: 08. 26. 28. 81. 81/緊急受付 TEL: 04. 78. 61. 80. 00

6 緊急連絡先

機関名	電話番号	住所・備考
在リヨン領事事務所	04 37 47 55 00	131, boulevard de Stalinglat 69100 Villeurbanne
在仏フランス日本国大使館	01 48 88 62 00	7, avenue Hoche 75008 Paris
在仏マルセイユ日本国総領事館	04 91 16 81 81	70, avenue de Hambourg BP199 13268 Marseille Cedex 08
入国管理局(OFFI)	04 72 77 15 40	7, rue Quivogne 69002 Lyon
中央警察(Hotel de Police)	04 78 78 40 40	40, rue Marius Berliet 69371 Lyon Cedex 08
3・6区警察署	04 72 82 15 00	1, rue St.Jacques 69003 Lyon
Villeurbanne警察署	04 72 69 10 60	63, avenue Roger Salengro 69100 Villeurbanne
緊急ダイヤル 救急車	15	
警察	17	
火災・緊急	18	
ツーリスト・オフィス	04 72 77 69 69	Place Bellecour 69002 Lyon
リヨン・サンテクジュペリ空港 (インフォメーション)	0826 800 826 (€0, 15/min)	BP113 69125 Lyon Saint Exupéry Aéroport
SNCF (フランス国鉄) チ ケット販売に関する情報時 刻表, 電車に関する情報	3635	
無線タクシー : Allo TAXI	04 78 28 23 23	Bd des Canuts 69004 Lyon
Radio Taxi	04 72 10 86 86	15, rue Dumont d'Urville 69004 Lyon
Centre Taxi GIE Aéroport	04 72 22 70 90	69125 Lyon Saint Exupéry Aéroport
レンタカー : HERTZ	0825 800 114	
AVIS	3642	
EUROPCAR	0825 009 900 / 0825 829 004	
救急医師団(SOS Médecins)	04 78 83 51 51	
電話番号案内	118 218	

7 トラブル時のフランス語

【助けを求める表現】

助けて！ Au secours! Aidez-moi! 「オースクール！エデモワ！」

緊急事態だ！ C' est une urgence! 「セチュンヌ ユルジャンス！」

警察を呼んで！ Appelez la police! 「アプレ ラ ポリス！」

火事だ！ Au feu ! 「オ フー！」

消防を呼んで！ Appelez les pompiers ! 「アプレ レ ポンピエ！」

応急処置隊を呼んで！

Appelez l' auxiliaire médical ! 「アプレ ロキシリエール メディカル！」

救急車を呼んで！ Appelez une ambulance ! 「アプレ ユン ナンビュランス！」

急いで！ Vite ! 「ヴィッツ！」

危ない！ Danger ! 「ダンジェ！」

気を付けて！ Faites attention ! 「フェット アタンション！」

【盗難に遭った時の表現】

バック(財布・スーツケース・パスポート)を盗まれた。

On m' a volé mon sac (mon portefeuille / ma valise / mon passeport)

「オン マ ヴォレ モンサック (モン ポルトフィーユ / マ ヴァリーズ /モンパスポート) 」

泥棒だ！ Au Voleur ! 「オ ヴォールール！」

部屋に泥棒が入った。

Quelqu' un s' est introduit dans ma chambre et a volé mes affaires.

「ケルカン セ アントロデュイ ダン マ シャンブル エ ア ヴォレ メザァフェール」

日本語を話す人はいませんか？

Est-ce qu' il y a quelqu' un qui parle japonais ?

「エスキリヤ ケルカン キ パルル ジャポネ？」

【怪我をした人に聞く表現】

大丈夫ですか？ Vous allez bien ? 「ブ ザレ ビヤン？」

どうしたのですか？ Qu' est-ce qui s' est passé ? 「ケスキ セ パッセ？」

心配しないで。 Ne vous inquiétez pas ! 「ヌ ヴー ザンキエテ パ」

救急車が必要ですか？ Avez-vous besoin d' une ambulance ?

「アヴェ ヴー ブゾワン デュヌ アンビュランス？」

【気分・状態を伝える表現】

負傷しました。 Je me suis blessé(e) 「ジュ ム スユイ ブレッセ」

出血しました。 Je saigne 「ジュセニュ」

動けません。 Je ne peux pas bouger. 「ジュ ヌ プ パ ブジェ」

助けてください。 J' ai besoin d' aide. Aidez-moi s' il vous plaît.
「ジェ ブゾワン デッド。エデ モワ シル ヴ プレ」

病気です。 Je suis malade. 「ジュ スイ マラッド」

気を失いそうだ。 Je vais m' évanouir. 「ジュ ヴェ メヴァヌイール」

吐きそうだ。 J' ai des nausées. 「ジェ デ ノーゼ」

ここが痛みます。 C' est ici que j' ai mal. 「セ ティシィ ク ジェ マル」

やけどをした。 Je me suis brûlé(e) 「ジュ ム スイ ブリュレ」

高熱がある。 J' ai une forte fièvre. 「ジェ ユンヌ フォルト フィエーヴル」

胃が痛い。 J' ai mal à l' estomac. 「ジェ マル ア レストマ」

気分が悪い。 Je me sens mal. 「ジュ ム サン マル」

日本語を話す医者はいますか？ Avez-vous un médecin qui parle japonais ?
「アヴェ ヴ アン メドゥサン キ パルル ジャポネ？」

Ⅲ 在留邦人用緊急事態対処マニュアル

2015年1月のパリ市内に所在する新聞社襲撃事件，同年11月のパリ連続テロ事件，2016年7月のニースでの車両突入テロ事件，2018年3月のカルカソンヌ市近郊でのテロ事件及び現在の世界情勢に鑑みれば，フランスにおけるテロの脅威は引き続き高いと言わざるを得ません。

また，大規模な事件・事故が発生した場合など，日常生活に甚大な影響を及ぼす可能性もあります。そのような緊急事態に際して，在留邦人の皆様が的確，且つ迅速に対応できるよう「平素の心構え」「準備」「緊急時の行動」について，最も重要と思われる点を簡単にまとめました。以下を参考にいただき，危機に際し，落ち着いて行動できるよう心掛けてください。

平素の心構え

緊急時に最も重要なことは「情報」です。

何処でどのようなことが起きているのか，発生した事態により誰がどのように影響を受けているのかといった事件情報を集めることや，家族や知人，友人，同僚などの家族の安否情報，さらにはこの事態にどう対処すればいいのか等，これらの情報を集めるとともに，自分や家族の安否情報を関係する人に発信していく必要があります。そのためにはパニックに陥らないよう，予め関係者の連絡先を書いたリストを作るなどの必要があります。また，このような緊急事態が発生した際には流言飛語（デマ）が飛び交うことが多いので，確実な情報に基づいて行動する冷静さが必要です。

準備

食料品等の備蓄

フランスでは，特に大規模な物品の備蓄は必要ないと思われませんが，緊急事態発生時には付近での買い物が困難になる可能性がありますので，食料，飲料水，乾電池等のある程度保管しておくことをお勧めします。

連絡体制の整備

在留届は提出していらっしゃいますか？

在留届は外国に3ヶ月以上滞在する方が提出することになっています。緊急時の連絡先を把握する資料として非常に役立ち，領事サービスを提供する際の基礎になるものですので，必ずご提出ください。また，住所，電話などの記載事項の変更や帰国，転勤などフランスを離れる際にも必ず書面でご連絡ください。

- ① フランスに3ヶ月以上滞在される方は，必ず在留届を提出してください。
- ② 緊急事態に備え，家庭や会社，団体などを構成する方はそれぞれの日常の行動，通勤，通学の

経路、利用交通機関などの情報をお互いに把握しておいてください。また、知り合いや身近の方でグループを作るなどし、緊急時に連絡を取り合うネットワークを作成し、万が一に備えることをお勧めします。

緊急事態が発生した場合は、在留届を提出頂いている方には緊急一斉通報（INSIDE）で緊急メールを送信する他、領事事務所ホームページ、Facebook を通じて緊急情報を発出します。

領事事務所ホームページ：<http://www.lyon.fr.emb-japan.go.jp/jp/index.html>

Facebook：<https://www.facebook.com/japon.consulat>

- ③ 緊急時には混線により携帯電話が使用不可能になることも想定されます。場合によっては、固定電話も不通になることもあり得ます。
- ④ 緊急連絡先などはメモにして常時携帯するようにしてください。携帯電話のメモリーはバッテリーが有効な間しか使用することが出来ませんので、メモリーに頼ることは十分ではありません。
- ⑤ なお、在留届とは別に3ヶ月未満の渡航者向けの「たびレジ」を運用しています。この「たびレジ」に登録することにより、渡航先国の大使館が発出する緊急メールを受け取ることが出来ますので、出張や旅行で仏国外に行かれる際は、是非ご利用ください。

たびレジ：<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

緊急時の行動

冷静

緊急時には、事態の迅速・正確な把握が困難なこともあり、パニックに陥りがちです。冷静に、落ち着いて、まずは連絡すべきところに連絡するよう心掛けましょう。

情報の選別

緊急時には様々な情報が飛び交います。その中には事実と反するいい加減な情報もありますので、誤った情報に惑わされないよう、また、流言飛語（デマ）にも十分ご注意ください。

行動

テロ・爆発事件等の緊急事態に遭遇した場合、被害を最小限に抑えるため、例えば次の諸点を心がけられることをお勧めします。

(1) 予防措置

- ① 退避ルートを確認する。
- ② 隠れられる場所を確認する。
- ③ 常に周囲の状況に注意を払い、不審者や不審物を見かけたら速やかにその場を離れる。

(2) 対処法

- ① その場に伏せるなど直ちに低い姿勢をとる。
- ② 頑丈なものの陰に隠れる。
- ③ 周囲を確認し、可能であれば、銃撃音等から離れるよう、速やかに、低い姿勢を保ちつつ安全なところに退避する。
- ④ 安全を確保した後、大使館、或いは自宅などに安否の連絡をする。

その他

海外旅行傷害保険への加入

短期滞在（旅行や出張など）の皆様におかれましては、海外旅行傷害保険には必ず加入しましょう。海外での医療費は保険が適用されず、要した費用を全額支払う必要がありますので、日本と比較すると非常に高額になるケースが多くあります。十分な補償額の保険に加入してください。

例えば、海外で事故や心臓発作等で、病院の集中治療室を2週間利用し、飛行機で緊急移送されるような場合は、2～4千万円を支払うようなことは珍しくありません。さらに、支払い能力の確認が出来ない場合、入院させてもらえず治療してもらえないこともあります。日本大使館、総領事館及び領事事務所は、病院の支払い保証を行うことは出来ませんので、注意する必要があります。

旅行日程のご家族との情報共有

個人で海外旅行する場合、自分の居場所は自分にしかわかりません。旅行先で緊急事態や大規模な事件・事故、自然災害等が発生して巻き込まれた場合に備え、ご家族には、旅行日程や滞在先の連絡先等を必ず出発前に知らせておきましょう。

在リヨン領事事務所メーリングアドレスへの登録

領事事務所では、リヨン地域を中心とした治安情報や文化行事などのイベント情報を随時、登録いただいたメールアドレスに配信しています。登録手数料は無料で、当事務所窓口、電子メール、出張サービスの際などに登録していただくことができます。詳しくは、当事務所までご連絡ください。

在リヨン領事事務所メールアドレス：consulatjapon.lyon@my.mofa.go.jp

IV 結語

海外で滞在・生活するにあたって、トラブルに巻き込まれないためには、日頃の情報収集や安全対策を面倒と思わず、興味を持って真剣に向き合うこと、そして「**自分の身は自分で守る**」という認識を持つことが大切です。

世界各国に設置されている、大使館、総領事館、領事事務所は在留邦人の皆様、短期旅行者の皆様の支援・保護を最も重要な任務の一つとしていますが、この「支援・保護」は皆様の自助努力の上に成立していることを御理解いただければ幸いです。

皆様の海外生活の安全と御健勝をお祈り申し上げます。